

再生エネで地域創生

「地方創生最前線 地域パワーで、まちづくり」と題した再生可能エネルギーフォーラム・土湯温泉2015は十一月五、六の両日、福島市の福島テルサで開かれる。温泉熱を利用したバイナリー発電と砂防堰堤の落差を生かした小水力発電事業の発表や講演などを通して地方創生の実践を発信する。

東京を拠点にする経営支援NPOクラブが元氣アップつちゆ、NPO法人土湯温泉観光まちづくり協議会と開く。初日は午前十時半から全

来月5、6日 福島でフォーラム

土湯の取り組み説明

国の再生可能エネルギー事業と地域おこしの取り組みを紹介したパネル展と説明を行う。フォーラムは午後一時からで、第一部は小林香福島市長、元氣アップつちゆの加藤勝一社長らが取り組みを説明する。第二部は全国の小水力発電事業の動向について全国小水力利用推進協議会の松尾寿裕理事らが紹介する。最終日は土湯温泉の発電所を視察する。

特別顧問ら来社
NPOクラブ

開催あいさつ

経営支援NPOクラブの荻田浩特別顧問(三井物産OB)と佐藤秀治会員(日本生産性本部OB)は九日、開催あいさつのため福島民報社を訪れた。

荻田氏は「土湯温泉は再生可能エネで地域おこしをする見本だ。地方創生の最前線で、全国に発信したい。今後とも支援を続ける」と語った。佐藤氏は「住民が率先して受け入れ態勢をつくるとまちづくりがおもしろい」と述べた。

参加無料。希望者は二十三日までに氏名、住所、法人名、電話番号などを明記し、ホームページ <http://www.ka-np.org/> またはファクス 03-5577-6786 で申し込む。

クラブは東京に事務所を置き、大企業のOB約百九十人で構成する。東日本大震災と東京電力福島第一原発事故後は福島を応援しようという県内の有機農産物販売などに取り組んでいる。

クラブを支援する三井生命の末友和雄基盤推進グループ長、山本雅伸郡山支社中央会推進担当法人推進部長が一緒に訪れた。



フォーラム開催の意義を説明する荻田(右)、佐藤の両氏